

！ カリフォルニアでの舎内作業

北海道立中央農業試験場

農業機械部 渡辺 隆

1957年4月から11月までの8ヶ月間、カリフォルニア州はスタニスラウス郡セレス市の酪農家グラハム氏の経営するミッドランド・ホルスタイン牧場で、搾乳作業を中心とする各種舎内作業や酪農機械化作業に従事した。

既に10年近い年月をを経験して居り、古い話となるが、ミルクの準備、搾乳、洗滌等の手順、乳牛の動かし方、等、僅か之各で90頭近くの搾乳を実施した経験を述べて御参考に供したいと思う。

午前2時起床、8キロ離れた牛舎まで、ポンティアックを飛ばしてゆき、分娩の手伝をし、牛を奥め、牛体を洗滌し、濃厚飼料のペレットを計量配量し、一万ミルクを組立、準備し、3時から搾乳開始。テールツータール、24頭式のミルクバナーの内で、整然と作業が進む。その間、マスタイゼテストや、注射、オイントメントの注入等、たまには削蹄までやり、6時々の分頃に搾乳を終り、牛舎の清掃、ミルクの洗滌、その他、もろもろの作業を終つて8時。帰宅まで帰つて朝食、若牛、仔牛の飼養、管理等をしているうちに、昼食。午後は、再び1時半に牛舎に行き、夕時に帰宅。

農業近代化は、如何に少ない人数で、如何に多くの頭数を、合理的、狂生的、生産的に飼養するかと云ふことにあるようである。